



メタバースで広がる日本語教育の可能性 開催報告

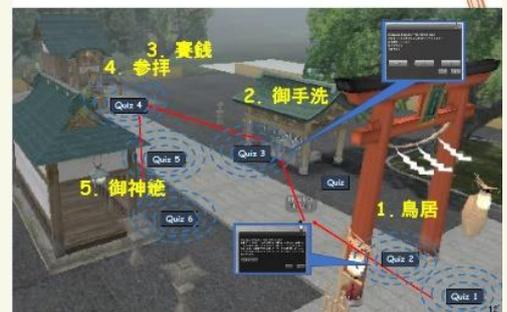


日 時:2023年8月27日(日)13:00~16:30 *Zoomによるオンライン開催
第1部 講演「メタバースを利用した日本文化に関する状況学習支援」講師:稲葉光行氏
第2部 メタバース体験&ディスカッション (申込者:42名)

今年度の「あしたば勉強会」では、立命館大学政策科学部の稲葉光行先生を講師としてお迎えし、メタバースを利用した学習支援について参加者の皆さまとともに考えました。稲葉先生は、現在、メタバース、ゲーム、遊びなどを応用した学習支援(学習科学)の研究に従事されています。

勉強会は2部構成で、第1部のご講演では、まずメタバースとは何かについて説明がありました。それを支えるプラットフォームは90年代からあるということが驚きでした。そして、メタバースが教育・学習でどのように活用されているかという様々な実践例が紹介されました。文化学習では、右図の神社参拝体験ゲームのように画像を見たりクイズに答えたりして、参加者が楽しみながら対等に学ぶ様子が印象的でした。メタバースを用いた日本語教育/学習のための5つのポイントとして、「身体性」(空間への没入感)「状況性」(学びの対象に近い)「文脈性」(属する社会文化的文脈とニーズに適した学び)「協調性」(古参者と新参者との協調作業)「創発性」(新たな学びの機会)が挙げられました。

学習実践1:神社参拝体験ゲーム



第2部では、参加者のみなさまにはあらかじめ「cluster」をインストールしておいていただき、「バーチャルお茶会」のメタバース体験をしていただきました。アバターを動かして、茶室の座布団に座り、モーション機能の「土下座」の動きを使って亭主に挨拶したりしました。その後、同じ茶室に入った人でブレイクアウトルームに分かれ、日本語教育/学習にメタバースが適しているか、メリット・デメリットは何か等について話し合いました。全体共有では、メタバースの活用の際に、技術的・環境的なハードルがある一方、雑談力が高まる、恥ずかしさや不安の軽減だけでなく、自分の枠を超えて新たな自分になれる、就職支援の場にも利用できる、等のメリットが多く出されました。授業での利用は難しいが、ボランティアや第三のルートとして活用できそうだという声もありました。



とても充実したディスカッションと発表で、稲葉先生からは、「こんなに充実したワークショップは初めて。日本語教師おそろべし」という嬉しいご感想をいただきました。

勉強会終了後のアンケートによると、講演、ワークショップともに皆さんに満足していただけたようで、「大変興味深く様々な気づきのある内容だった」「日本語教育以外の分野を専門とされる方からの講義は普段なかなか触れられないトピックなので、大変ありがたい」等のお声も寄せられました。「日本語教育の中でもチャレンジ的な内容がとても興味深く面白い」といった声も聞けて、「あしたば」が目指す勉強会を開催できたことの意義と喜びを感じております。改めてご講演くださった稲葉光行先生とお手伝いくださった学生スタッフの方々、参加者の皆様方にお礼を申し上げます。(文責:杉本)